

アラウンド・ザ・ワールド 2

— Around the World —

第126回

アセット・インテンシブ再保険に よる戦略的リスク管理

アラウンド・ザ・ワールドPart2の126回目は、アセット・インテンシブ再保険(AIR)を取り上げる。保険会社がAIRを通じて長期的価値を創出するために適用するベストプラクティスとは?(RGA再保険会社提供)

保険は長期にわたるビジネスだが、負債を取り巻くリスクは絶えず変化している。市場のシロク、保険契約者の行動変化、長寿化の傾向は、ポートフォリオの価値を損ね、資本や健全性指標を圧迫する。同時に、保険会社は業界の中核をなすステークホルダー、すなわち保険契約者、監督当局、投資家等のそれぞれ異なる期待に応えなければならぬ。効果的なリスク管理戦略には、支払能力や成長を損なうことなく、こうした相反する優先事項のバランスをとることが求められる。AIRは、専門的なパートナーに投資・負債に係るリスクエクスポージャー

を移転することで、この課題に対する構造的な対応策を提供する。その結果、バランスシートの安定化、ボラティリティの低減、そして戦略的な取り組みを支える資本の柔軟性向上に寄与する。この観点で見ると、アセット・インテンシブ再保険は高利回りの追求を目的とするものではなく、予測不能な世界においてレジリエンスを構築し、リスクを管理するための手段である。

リスク管理の重要性の増大

ガバナンスや担保の枠組みが不可欠だ。分散効果・グローバルな再保険会社との提携は、取引構造やカウンターパーティの集中度に比べて、保険会社は集中リスクや金利変動を管理しやすくなる。カウンターパーティリスクとのトレードオフ・AIRは、資産運用リスク、保険契約者行動リスク、および資産・負債に係るリスクに対する直接的なエクスポージャーを再保険会社というカウンターパーティへのエクスポージャーに置き換える。効果的なリスク低減には、カウンターパーティの信用力、取り引きの分散、ならびに関係者間のインセンティブを適切に整合させ長期的な保険契約者保護を図る強固な

アセット・インテンシブ再保険によるリスク低減

リスク移転の仕組み…分散化したポートフォリオと高度な投資能力を有



ポーター氏



大場氏

執筆者
RGA エグゼクティブヴァイス・プレジデント
兼グローバルチーフリスクオフィサー
ジョナサン・ポーター

日本語訳
RGA リンシュアランスカンパニー日本支店 通訳
山本あゆみ

日本語監修
RGA リンシュアランスカンパニー日本支店
ディレクター ビジネス・ディベロップメント部兼商品開発部
大場 康平

は入手が困難な場合が多い。監督当局との連携…AIRを成功させるには、積極的かつ継続的な監督当局との対話も不可欠だ。経験豊富な再保険会社は、多くの場合、現地監督当局との確立された関係を有しており、管轄区域で求められる規制上の期待事項を把握しているため、承認手続きの効率化、透明性の向上、そして長期的な監督当局の信頼獲得につながる。こうした連携により信頼関係が強化され、変化を続ける規制の枠組みに対して取引構造が継続的に整合することを確保する。

ガバナンスや担保の枠組みが不可欠だ。分散効果・グローバルな再保険会社との提携は、取引構造やカウンターパーティの集中度に比べて、保険会社は集中リスクや金利変動を管理しやすくなる。カウンターパーティリスクとのトレードオフ・AIRは、資産運用リスク、保険契約者行動リスク、および資産・負債に係るリスクに対する直接的なエクスポージャーを再保険会社というカウンターパーティへのエクスポージャーに置き換える。効果的なリスク低減には、カウンターパーティの信用力、取り引きの分散、ならびに関係者間のインセンティブを適切に整合させ長期的な保険契約者保護を図る強固な

の利害の整合性を確保し、保険契約者を保護し、監督当局の要件を満たすためには、以下の三つの主要な柱に基づく適切な枠組みが構築されるべきだ。

①ガバナンスと監督体制
強固なガバナンスは、あらゆるAIRの根幹をなすものだ。元受保険会社と再保険会社は、リスク低減、資本の最適化、戦略的なポジション転換といった主要な目的について認識を共有し、役割、責任、意思決定権、および意思疎通のプロセスを文書化しなければならない。効果的な監督体制には、定期的なパフォーマンス評価、明確なエスケーション手順、部門横断的な関与、監督当局や取締役会に対する透明性の高い報告が含まれる。

②投資ガイドライン
投資戦略は、リスク管理と運用パフォーマンスの両立を図る領域だ。再保険会社の資産ポートフォリオは、流動性のミスマッチや過度な変動を避けるため、出再された保険負債と密接に整合していなければならない。質の高いガイドラインには、投資可能な資産クラス、集中度やデュレシヨンの上限、最低信用格付要件、報告や透明性に関する要件、市場変化に伴うガイドライン変更の手続きを明記しなければならない。

③担保設定
担保は、AIRにおいて、元受保険会社と保険契約者を保護する仕組みの一つだ。堅固な担保の枠組みには、明確な担保適格要件、入替の方法、担保の追加差入れや是正期間、負債のデュレシヨンの整合性が含まれる。適切に設計された担保スキームは、安全性と投資の柔軟性のバランスを実現する。過度に厳格な担保要件は保険契約者を保護する一方、投資収益を制限し、再保険料の上昇をもたらす可能性がある。

透明性のあるガイドライン…基本的な条件は取引開始時に確立すべきだが、成功している取引引きには、市場環境や監督当局の期待の変化に応じて、見直し、モニタリング、調整を行うプロセスが含まれている。十分に文書化され、一貫して適用されるガイドラインは、紛争を最小限に抑え、元受保険会社と再保険会社との認識を整合し、契約期間を通じてリスクが適切に管理され続けているという信頼感を監督当局に与えることにもつながる。

強固なトリガー条項…長期にわたる取引引きには、ストレス環境下でも効果的に機能するよう明確に定義された保護措置が必要だ。こうした保護措置には、契約上の権利、ガバナンス上の統制、財務健全性の指標、そして必要に応じて担保を活用した仕組みなど、さまざまな形態がある。業績、財務状況、またはリスクプロファイルに関連するトリガーは、客観

的かつ測定可能であり、実務上実行可能なものでなければならない。適切にトリガーを設計することで、新たな問題がシステミックリスクへ発展することを防ぎ、元受保険会社と保険契約者の安定性を維持しつつ、再保険会社にとって適切な柔軟性を確保するのに役立つ。

部門横断的な関与…AIRは、資本、リスク、投資戦略、そして業務運営に同時に影響を及ぼす。したがって、リスク低減を持続させるには、取引開始時の認識合わせにとどまらず、財務、リスク管理、投資の各部門および事業部門を含む組織全体にわたる継続的な連携が必要だ。

取引実行後の長期的な成功の鍵
取引開始時には堅牢な枠組みに基づいて取引構造が構築される一方で、長期的なリスク低減を実現できるかどうかはその後の実行とライフサイクル管理にかかっている。取引相手の評価・格付けや資本力の評価にとど

【ポーター氏のプロフィール】ウオータール大学卒業。米国およびカナダのアクチュアリー会正会員。2008年RGA入社。